

日本原子力学会 原子力発電部会
次期軽水炉の技術要件検討 WG 第 6 回会合
議事録

日時 : 2019 年 11 月 8 日 (金) 13:30 ~ 16:00
 場所 : 東京大学工学部 8 号館 2 階 226 大会議室
 出席者 : 山口_{主査}(東大)、山本_{幹事}(名大)、大神_{幹事}(関電)、有田_{幹事}(MHI)、糸井_{委員}(東大)、
 宇井_{委員}(電中研)、浦田_{委員}(NEL)、楠_{委員}(原電)、黒崎_{委員}(京大)、越塚_{委員}(東大)、
 佐治_{委員}(MHI NS エンジ)、佐藤_{委員}(関電)、菅原_{委員}(関大)、谷口_{委員}(東電)、
 成川_{委員}(JAEA)、東_{委員}(WH)、藤木_{委員}(東芝 ESS)、芳原_{委員}(近大)、
 松浦_{委員}(日立 GE)、宮口_{委員}(MHI)、山路_{委員}(早大)、与能本_{委員}(JAEA)
 オブザーバー : 伊地知(IHI)、今井(安藤ハザマ)、兼近(鹿島)、嶋田(日揮)、杉林(MELCO)、
 鈴木(大成)、高山(MHI)、田口(関電)、竹地(関電)、森松(関電)、吉田(大林組)
 (敬称略)

配布資料 :

- 資料 6 - 1 : 第 5 回 WG 議事録
- 資料 6 - 2 : 次期炉 WG コメント処理表
- 資料 6 - 3 : 第 5 回 WG 資料 5-4 「第 2 回 (恒設/可搬型 SA 設備) 及び第 3 回 (APC その他テロ対策) に係る論点整理を踏まえた深層防護の実装について」改訂版
- 資料 6 - 4 : 第 5 回 WG 資料 5-5 「溶融炉心冷却対策に関する協議」改訂版
- 資料 6 - 5 : 「2020 年春の年会」原子力発電部会企画セッションでの発表について

議事 :

1. 参加者確認、第 5 回 WG 議事録、第 5 回 WG 資料改訂版の確認

WG 委員名簿を用いて、幹事より当該 WG 出席の委員の確認があった。また、オブザーバーの交代等による新たな出席者からの自己紹介があった。

次に、第 5 回 WG 議事録(資料 6-1)について幹事より報告あり。またコメント処理表(資料 6-2)、第 5 回資料改訂版(資料 6-3、6-4)等に基づいて第 5 回 WG のコメント回答・処置について幹事より説明した。

溶融炉心冷却対策(資料 6-4)に関しては福島第一発電所事故を経てその必要性が強く認識されたものではあるが、同事故の事象の全容が明らかになっていない現時点では、主として米国 : TMI の経験、欧州 : チェルノブイリの経験を踏まえた技術について議論されたものと考えべきであり、福島第一発電所事故から得られる知見の詳細を踏まえた設計への反映については今後の継続課題であるとの意見を戴いた。

2. 「2020 年春の年会」原子力発電部会企画セッションでの発表骨子に関する協議

資料 6-5 を用いて「2020 年春の年会」原子力発電部会企画セッションで WG の成果報告を行

う事の趣意と発表の骨子に関して幹事より報告した。

発表の骨子全体に関しては特に異論はなかった。なお、福島第一発電所事故の経験を踏まえた安全性向上の議論として外的事象への対応を WG の議論の対象外とする説明方法や深層防護の実装のバランスにおける既設炉との比較での表現方法については、聴講者に誤解を与えないように注意して発表を纏めるようコメントあった。

本件については、委員にて改めて内容確認し、11/22 までに幹事宛てへ追加コメント等あればご連絡戴くよう要請した。本日戴いたコメントも踏まえ企画セッションの発表資料をブラッシュアップし、第 7 回 WG (2/19 予定) に最終確認戴く予定である事を幹事より説明した。

3. その他

・ 次回の日程（予定）

#7WG： 2020 年 2 月 19 日（水） 13:30～16:30 @東大工学部 8 号館 2 階 226 大会議室

- 企画セッションの発表資料の確認
- WG 報告書のドラフト版

以 上